



一般社団法人

ふらっとカフェ鎌倉

～地域に根づく居場所づくりとフードバンクかまくらの立ち上げ～

2023/2/15 代表理事 渡邊公子



(一社) ふらっとカフェ鎌倉

想い



みんなの笑顔が見たい！

生きることは食べること

をモットーした食を通じた居場所づくり



(一社) ふらっとカフェ鎌倉



2017年3月設立の一般社団法人。(活動拠点:鎌倉市内全域)

現在 **15**団体・**20**名・協力店舗 **19**店が参画

(子育て・学習支援NPO団体、レストラン・福祉施設経営者・大学教授等)

【事業】

■ 移動式地域食堂「みんなたべ」 (みんなで食べる食堂)

鎌倉市内で「レストラン」「福祉施設」の**定休日**を借り、運営する。
栄養バランスの取れた食事の提供・三世代交流の場をつくる。

■ フードバンクかまくら (2022年4月立ち上げ)

2018年よりフードパントリー事業を実施。コロナ禍になり、安定した食料の受け入れ、配布が必要となり、フードバンクかまくらを**鎌倉市と協働で設置**。

■ みんなたべ協議会運営 (多岐にわたる団体との連携や情報共有)

開催風景



開催風景



開催風景





100回目の様子



コロナ禍になってからの変化

～新たな取り組みの開始～



地域食堂の変化（感染症前後での変化）

コロナ感染症前

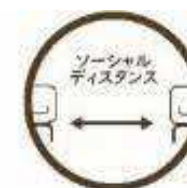
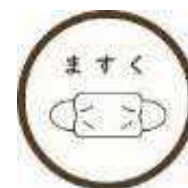
- 2017/3/22～2020/3/18までに計**123**回開催
- 参加者総数 延べ**4596**名（約月**3～4**回開催）
- 固定と変動の場所にて開催（新規協力店舗も年**3～4**箇所増加）

コロナ感染症後

- 2020/4/22～2022/10/26までに計**40**回開催（コロナ前含め延べ**165**回）
- テイクアウトの開始（店内人数制限・時間調整実施）
- 平均**25～40**食提供（月**2**回開催／コロナ前含め参加総数延べ**6571**人）
- 固定**2**か所にて開催（**1**か所新規開催場所あり）

コロナ禍の新しい様式での開催の取り組み

- ① マスクの着用、検温・除菌の実施、3密を避ける席の配置
- ② テイクアウト(お弁当)の実施
- ③ 完全事前申し込み制(事前確認の徹底)
- ④ 店内飲食は人数制限(10名)を設け、時間で区切り入れ替えを実施
- ⑤ 食事の提供は特定スタッフが行う



鎌倉市との協働事業（ガバメントクラウドファンディング）

新型コロナウイルスの影響を受ける生活困窮者に食を届けるため、**事業の運営費用**をガバメントクラウドファンディングで募りました。

ふるさとチョイス
プロジェクトを探す

寄附合計 8,416,890,413 円

ふるさと納税ガイド

プロジェクト一覧 応援メッセージ GCF®とは

TOP > 過去実績 > 余ってしまう食材を必要としているところへ!～鎌倉で食を通じた地域のつながりを～

余ってしまう食材を必要としているところへ!～鎌倉で食を通じた地域のつながりを～

カテゴリ: 健康・福祉

達成!

寄付金額 2,151,000円

215.1%

目標金額: 1,000,000円

達成率	支援人数	終了まで
215.1%	93人	受付終了

神奈川県鎌倉市 (かながわけん かまくらし)

お気に入り

このプロジェクトは終了しました

鎌倉市提供資料①

鎌倉市との協働事業（ガバメントクラウドファンディング）

カテゴリー：健康・福祉



朝日新聞 DIGITAL

トップ 社会 経済 政治 国際 スポーツ オピニオン IT・科学 文化・芸術

朝日新聞デジタル > 記事

「困窮世帯に食料を」官民タッグで支援 鎌倉

編者責任 2020年10月20日 10時30分

シェア ツイート フォロワー フォーク 印刷



寄付された食材を使ってレストランなどで楽しい食卓を開き、一人親家庭などを応援してきた鎌倉の団体「ふらっとカフェ」が、鎌倉市の協力でふるさと納税を使った資金集め（ガバメントクラウドファンディング）を始めた。コロナ禍以降、「ふらっとカフェ」は従来の食卓会に代え、困窮世帯に食料品を届ける活動を続けていて、集めたお金はそうした資金にする。

寄付金額

2,211,000円

221.1%

目標金額：1,000,000円

達成率

221.1%

支援人数

97人

終了まで

受付終了

マスコミからの応援

「困窮世帯に食料を」官民タッグで支援 鎌倉
 1月16日 2020年10月20日 10時30分

「この夏、『おは！食しお食べてい！』、『永も公園でくんでいる』と話す鎌倉が、これは大変だと思った」。代表の渡辺

寄付された食材を使ってレストランなどで新しい食事を開き、一人暮らしなどを応援してきた鎌倉の団体「ふらっとカフェ」が、鎌倉市の協力でふるさと納税を使った資金集め（カバメントラウドファンディング）を始めた。コロナ禍以降、子ども食堂は従来の食事に代え、困窮世帯に食料品を届ける活動を続けていて、集めたお金はそうした資金にする。

「この夏、『おは！食しお食べてい！』、『永も公園でくんでいる』と話す鎌倉が、これは大変だと思った」。代表の渡辺

コロナ禍の子ども食堂 食料配布で見えた重しい現状

「おは！食しお食べてい！」

子ども4人の母子家庭「お米はすぐ読かります」



2020年（令和2年）5月10日（日） 朝日新聞 神奈川版

子ども食堂へ給食食材 走る2人

鎌倉の渡辺公子さん・山本真揮さん

休校で余った品車で配達

「休校で余った品車」を、市内12カ所に届けたのは、小学校の給食に使うはずだった靴箱のあられはんぺん。4月15日、鎌倉市給食局

小中学校の休校が明らかで、鎌倉市では学校給食用の食材が残り、子ども食堂に運ばれなかった。渡辺さんと山本さんは、品車の品物を回収し、子ども食堂に届ける活動を行っている。品車は、取り扱った食材を回収し、子ども食堂に届ける活動を行っている。品車は、取り扱った食材を回収し、子ども食堂に届ける活動を行っている。

渡辺公子さん（左）と山本真揮さん。市内12カ所に届けたのは、小学校の給食に使うはずだった靴箱のあられはんぺん。4月15日、鎌倉市給食局

「ふらっとカフェ」

「食を介した心豊かな地域共生社会づくり」を目指す「ふらっとカフェ」鎌倉（代表は谷本代表が、市内、鎌倉市内で開催している食事が8月21日、鎌倉市二階堂の二階「ふらっとカフェ」で開かれました）

あらとカフェ 使い切れない食品を募集

お昼飯人や晩飯、お祝い（5歳）

家庭などで残った食品を回収する「フードドライブ」で集まった食品を、必要とする人や施設に届ける活動を行う「ふらっとカフェ」鎌倉では、随時食品の寄付を受け付けている。

寄付された食品は、市からの委託を受けて福祉センター内の倉庫「フードバンク」で管理。同団体が主催する集いの場「ふらっとカフェ」市内の子どもの食堂での利用

コロナ禍のなか新形式で食卓会

「ふらっとカフェ鎌倉」

「食を介した心豊かな地域共生社会づくり」を目指す「ふらっとカフェ」鎌倉（代表は谷本代表が、市内、鎌倉市内で開催している食事が8月21日、鎌倉市二階堂の二階「ふらっとカフェ」で開かれました）

市内の子どもの食堂での利用

フードバンクかまくらが立ち上がるまで

2020年度

- 食糧寄付 **150**件(8/1~12/26) → 年々増加
- 学生コラボデリバリー支援 **39**食(12/13)
- コロナ禍支援で必要な家庭への食糧支援 年**3**回/**10~12**世帯

2021年度

- 食糧寄付 **301**件(4/1~3/31)
→企業・学校からの寄付**76**件 市民からの寄付**125**件
- 鎌倉市協働食糧無料配布会 **9**回
→平均**100~120**食(1食 平均**3.5**kg/最大**200**食)
- ひとり親、高齢者、生活困窮世帯への支援 年**12**回/**35~42**世帯
→平均**10~12**品(約**12**kg~最大約**20**kg/世帯人数による)
季節や寄付品の内容によって、毎月食品の種類を変更している。

フードバンクかまくらが立ち上がるまで

2022年度

- 食糧寄付 **1,595**件(4/1~12/3)
→企業・学校からの寄付**630**件(毎月複数回寄付をうける企業あり)
- 鎌倉市との協働食糧無料配布会 **9**回(4/16~12/17:第3土曜日)
→平均**120~140**食(1食 平均**5.5**kg/最大**200**食)
- みんなたべ連絡協議会事業として、市内こども食堂「やんちゃ食堂」の定期的食糧配布会支援(毎月**1**回/**10**食分)

フードバンクかまくらが立ち上がるまで

- ひとり親、高齢者、生活困窮世帯への支援 **9回** / **40~44世帯**
→ 事前登録制。(現在**51**件登録。毎月第1土曜日実施)
平均**10~12**品(約**12kg**~最大約**20kg** / 世帯人数による)
季節や寄付品の内容によって、**毎月食品の種類を変更**している。

1回の公募支援で終了せず、個別の支援要請連絡・食材寄付があり次第、**随時配送対応の実施**(月**2~3**回)

こまめな連絡・**特定スタッフによるデリバリー**をすることで、信頼関係(育児相談等)を築けている。

⇒ **自然な見守り・対等な人間関係の構築(継続した関係づくり)**

フードバンクかまくら（食糧支援）の様子

■フードパントリーからフードバンクかまくらへの拡充（現在）

安定した食糧支援や仕組みを作るため、鎌倉市生活福祉部と連携、**ガバメントクラウド**を実施、目標金額（100万）を大幅に超え**達成**。同時に**市内外・県外**から多くの食材寄付も。（2020/10/1-11/15）

2022年4月1日～

寄付等の増加に伴い、鎌倉市と協働で保管用倉庫の確保。

フードパントリー事業から『**フードバンクかまくら**』設立。

2022年9月～

玉縄青少年会館2F会議室にて**第二倉庫**の運営開始。

鎌倉市内全域での寄付の受け入れ・搬出ができる環境を作る。

フードバンクがまくらが立ち上がるまで



食材に合わせた
調理レシピ

家族構成・環境を
配慮した
詰め合わせ

こまめな支援で
見守り

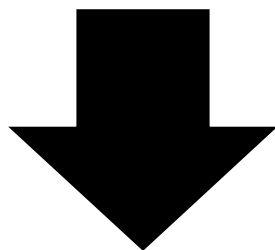


生活困窮者への食料支援



今後の活動

暮らしの支援を **どう組み立てるか**



専門サービス**以外**のプラスα

地域主体・住民主体のやり方(地域づくり)

ふらっとカフェ鎌倉が大切にしていること



■ 平等（対等）であること

支援側・される側共に平等（対等）の関係であるからこそ、生活環境・年齢・性別関係なく、気兼ねせずに参加することができる。

⇒ また「参加しよう」と思える（見守り・引きこもり防止）

■ 地域住民を巻き込んだ活動

移動式地域食堂にすることで、**地域ごとの参加者の輪や特色**が出た。（地域のレストラン・福祉施設で運営することで**地域目線、繋がり**が自然と出来上がった。）地域住人への声かけ・イベントへの協力・参加された地域の方が次回も参加・協力しやすい環境づくりをすることや活動の理解から、多くの食材・寄付金・寄付物品があった。

⇒ 誰でも気軽に関われる環境づくり（継続した支援の環境づくり）

ふらっとカフェ鎌倉が大切にしていること



■誰と一緒にやるか・巻き込むか

他団体の得意分野（育児・料理・広報・福祉・音楽・学習支援等）を活かした企画・運営コラボを実施（関係人口の増加）したり、鎌倉市や教育委員会を巻き込むことで課題の共有・協定の締結・活動の幅が広がった。

⇒ 特色のある地域食堂の運営や団体活動の多様性が生まれた

■対面・関わり続けることの大切さ

一時的な運営ではなく、地域に根差した活動や広がりができる仕組みを構築することで**継続運営の環境づくり**を行った。また、学生とのコラボ企画することで**次世代育成・人の循環・安定運営**につなげた。

⇒ 関係人口の増加・柔軟性の高い運営環境づくりをすることができた

ふらっとカフェ鎌倉が大切にしていること



市民一人一人の力は
小さな力でも
集まれば大きな力となる
(参加ボランティアの声)



多くのメディアの協力

⇒掲載によって多くの寄付・支援金をいただく。

朝日新聞デジタル > 記事

「困窮世帯に食料を」官民タッグで支援 鎌倉

鎌倉市 2020年10月29日 10時20分

シェア ツイート フォックマーク



鎌倉市役所の会議室で、市役所職員と「ふらっとカフェ鎌倉」の代表が話し合っている。



余った食品、地域で活躍

30日からの寄付受付

「食べきれない」「使う予定がない」……。こういった家庭で余っている食品を併り、福祉活動団体に寄付する「フードドライブ」を3月24日（日）から29日（金）まで鎌倉市（初日は受付なし）とNPO法人鎌倉リサイクル推進協議会が協賛事業の一環として実施する。



30日からの「フードドライブ」の受付。

この取り組みは、消費しない食品を捨ててしまう「食ロス」を減らし、全国で行われているもので、市では2019年度に約1000トン、これまでも市内にわたって実施されてきた。

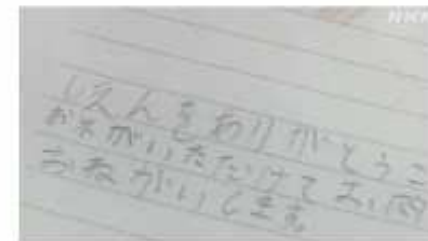
市ごみ処理場閉鎖によると、使い切れない食品、米、ジャガイモなど、多い時は約60kg。市内で福祉活動を行う「一社」ふらっとカフェ鎌倉は「フードドライブ」で管理されてきた。

「食を譲じた世代間交流の場を」と高野市長は、月に数回、料理を振る舞う活動を行うことで、寄付を通じて、渡邊公子代表は「継続して活動の場を、他団体と協力し、市内の小学校区に1カ所ずつ」と話す。

コロナ禍の子ども食堂 食材配布で見えた厳しい現状

2020年11月10日

1分 2分 3分 4分 5分



「食料をありがたうございます、おかげでとても助かっています」
これは、コロナ禍でさらに活動できなくなった神奈川県鎌倉市の子ども食堂が、困窮する世帯に食材を配布する取り組みを始めたことと、子どもが受け取った手紙の手紙です。活動を通じて見えたのは、家庭や世帯の事情で食料不足と苦しむ人たちが後を絶たない現状でした。

子ども4人の母子家庭「お米は必ず」



鎌倉市 2019年5月31日

食で広がる多世代交流の輪

ふらっとカフェが活動3年目

「ふらっとカフェ鎌倉」（渡邊公子代表）が活動3年目に入った。「子ども食堂」にヒントを得ながら、老若男女、誰もが気軽に参加でき、交流を図るこの取り組み、食事はもちろん、読書や読劇、片付けも全員で行うのが特徴だ。



渡邊公子（右）と参加者（左）と、子ども食堂のメンバー。

市内8カ所の施設や飲食店を会場に、月に数回開催するほか、思いに賛同した人がノウハウを学び、5カ所で「独立」するなど、活動は広がっている。今春には、各団体が賛助料などを募る協議会が決定。「一人でご飯をたべ、お店で買ったものばかりといった『食の負担』を無くしたい」。加藤代表が掲げてきた「小学校区に1カ所」という目標に少しずつ近づいてきた。

「食事付き寺子屋」目指す 「ふらっとカフェ鎌倉」スタート

2020年10月29日

1分 2分 3分 4分 5分



「ふらっとカフェ鎌倉」の調理場。調理師の渡邊公子さんが、子ども食堂のメンバーと一緒に調理している。

子どもが安心して食べられる食事を通して、多世代交流の場を「ふらっとカフェ鎌倉」が鎌倉市内でスタートした。NPO法人などにも団体の協力して「食事付き寺子屋」を目指し、活動中。加藤代表は「食料不足と苦しむ人たちが後を絶たない現状を、みんなで気軽に楽しく、美味しいご飯を食べる場にしたい」と意気込みを語る。



ご清聴ありがとうございました。

一般社団法人ふらっとカフェ鎌倉

TEL(代表):090-5199-1654

MAIL(代表):flatcafe~~kamakura~~@gmail.com

(ボランティア専用窓口):vol. [flatcafe~~kamakura~~@gmail.com](mailto:flatcafekamakura@gmail.com)

倉庫住所:〒248-0012 鎌倉市御成町20-21福祉センター内1F

〒247-0071 鎌倉市玉縄1-2-1 玉縄青少年会館内2F

